

Title	翻譯と専門の譯語
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1929
Jtitle	史学 Vol.8, No.1 (1929. 3) ,p.158- 158
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19290300-0159

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

翻譯と専門の譯語

幸田成友先生の近著、『讀史餘錄』(大岡山書店發行)の中には、史學の研究者に取つて興味のある記事が満載せられてゐる。その中『伊王島の半日』を述べた中に、

『Aの學問との技術にもそれ／＼専門語がある。例へば Les Bienheureux (福者)といひ、Les Sainte(聖人)といひ、Les Vénérables (尊者)といふは、天主教で使ふ専門語であるが、その意味及び宗派で慣用して居る譯語を知らぬ自分等は、偶々原書を読み、それ等の言葉に接すると甚だ當惑する。自分一己で讀書してゐる際は、半解のまゝで済まふが、これを筆に載せ口に移して、他に傳へる段になると、十分義理を明らめ、且つ慣用の譯字を充てなければならぬ。それを我流でやつた翻譯物も随分ある。厚顔無耻の仕業で、素人を欺くことは出来やうが識者からは一笑に附せられる。各種の對譯字典にある専門語の翻譯が、どれだけ信用を置いてよいか、甚だ覺束ない。松岡師曰く、カトリック教をさして舊教といふ方もありますが、あれは不適當で、我等は公教と申します。天主教をいふてもよろしい。ルーテルやカルピンの唱へた宗教を新教といふところから、舊教といひ出したのでせうが、カトリックの字義に舊といふことは毛頭ありません。』(四九—五〇頁)

この意味に於て、厚顔無耻の著述は本邦にざらにある。所謂専門家の著述に於てもさうである。しかし松岡師の曰はるゝ如く、カトリックの字義に舊といふ意味は毛頭なくとも之を舊教といひ彼等の教皇を我等が法王といふ如きは非議すべきものではなから

うと思はれるけれども、専門語に對する無智は大に咎むべきであらう。更らに同書には、

『公教の方には曆がある。今は曆といはずに祝日表といふ。小齋・大齋・主日等いろ／＼な祝日を月日欄の下に記入してあるところは曆に相違ないが、曆といつては神宮司廳の曆に差支があるので祝日表といふのであらう。(中略)この祝日表はどう動くかといふ自分の質問に對し、第一に復活祭及びそれにつれた祝日は移動する。之は春分の後に來る満月の次の日曜日をも以て復活祭の日と定めるからである。第二に聖人の祝日は日曜日に當ると繰延べるといふ松岡師の返答であつた。姉崎博士は天明七年抄寫の教會曆を『切支丹宗門の迫害と潜伏』三一〇頁以下に掲げ、『現行教會曆と違ふ著しい點は、一切死靈の日が十一月三日でなくて二日になつてゐる』と言はれたが、一切死靈の日は十一月二日が宜いので、博士が所持せられた所謂現行の教會曆は、その年の十一月二日がたまたま日曜日に當るので三日に直してあつたのであらう。(中略)祝日表一冊の見様も迂濶には出来ぬものと感じた。』(五〇—五一頁)とある。

外國(舊教の行はれる)に居たほどのものならば誰でも知つてゐさうな『ラッサーン』を知らないキリスト教の研究者姉崎博士に詢々と説かれてゐる點も面白い。しかしこれは誰しもよくやる事ではある。本書の書評は別に書かれる人もあるであらうから、自分は是だけのことを拔萃して置く。(間崎万里)